

書名	豊臣兄弟を支えた個性派家臣団とその愛刀			著者名	小和田泰経／著 小和田哲男／監修		
出版社	ホビージャパン	ISBN	978-4-7986-4016-7	本体価格	¥2,000	発売	2026/2/3
内容	天下を統一した豊臣秀吉と、それを側で支えた弟・秀長。来年のNHK大河ドラマ『豊臣兄弟！』は、この兄弟のサクセスストーリーを描くものです。同じく天下統一を果たした織田信長、徳川家康についてはその家臣団について詳細に取り上げられますが、一方で豊臣家の家臣団については、成立の過程からあまり取り上げられることはありません。そこで、豊臣兄弟と共に天下を取った豊臣家臣団を、拡大の歴史と共に詳説。監修は小和田哲男氏が担当します。また、日本刀専門誌『刀剣画報』編集部が、豊臣兄弟及び豊臣家臣団の愛用刀剣について紹介します。						

書名	ほんとうの法華経			著者名	橋爪大三郎 植木雅俊／著		
出版社	筑摩書房	ISBN	978-4-480-44088-4	本体価格	¥1,200	発売	2026/2/12
内容	法華経の画期的翻訳を完成させた植木雅俊と、宗教社会学者橋爪大三郎が、ブッダ本来の教えと法華経の正しい読み方を説き明かす。最高の仏教入門書。						

書名	神さまたちの由来 日本「多神信心」のみなもと			著者名	木村 紀子／著		
出版社	集英社	ISBN	978-4-08-721398-0	本体価格	¥920	発売	2026/2/16
内容	「正直の頭(こうべ)に神宿る」「苦しいときの神だのみ」「触らぬ神に祟(たた)りなし」「お客様は神さまです」……さまざまな慣用表現に半ば自然に出てくる、日本人の神意識の根っこやみなもと。それは、遠くどのあたりから発し、人々のどんな思いや願いに根ざしているのか。古事記・日本書紀・風土記などのいわゆる初期文献から、王朝の日記、物語、歌謡や古辞書、延喜式などの漢文資料まで、神々をめぐる多様な言葉の世界に、この国のカミとヒトの関係の原景を探っていく。						

書名	大伴氏 古代名門氏族の四〇〇年			著者名	三谷芳幸／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-30631-7	本体価格	¥2,000	発売	2026/2/25
内容	ヤマト政権内で軍事氏族として台頭した大伴氏は、蘇我・物部両氏が衰退した後も伝統豪族として政界で重きをなした。しかし橘奈良麻呂の変や藤原種継暗殺事件、承和の変などの政争にまきこまれ、応天門の変で歴史の表舞台から姿を消す。藤原氏のライバルといわれた名門氏族の軌跡をたどり、四〇〇年に及ぶ古代国家の展開をも鮮やかに描き出す。						

書名	今昔奈良物語集			著者名	あをにまる／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-116760-1	本体価格	¥780	発売	2026/2/25
内容	黒須は激怒した一友人を人質にぼったくりバーへ残し、奈良の実家へ現金を取りに夜通し疾走する(「走れ黒須」)。竹をメルカリで売っていた翁は、かぐや姫を拾い動画配信で広告収入を得るが、姫が月の国の住人と知る(「ファンキー竹取物語」)。奈良公園で鹿を轢いた官僚・稲田が草むらから聞こえた声は、ユーチューバーを志した高校時代の親友・理一郎だった(「若草山月記」)。古典名作と現代奈良が交差する全十一篇のパロディ短編集！						

書名	家柄の誕生 古代貴族から近代華族へ			著者名	佐伯智広／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-30632-4	本体価格	¥1,900	発売	2026/2/25
内容	公家がどの地位まで昇進できるかを、家ごとに規定し、近代社会にまで影響を及ぼした「家格」はいかに生まれたのか。貴族社会の基礎知識や、最上級貴族の撰閥家・清華家、上級貴族の羽林家・名家、それぞれの家格の成立と家の存続を、天皇との関係や政変・内乱の影響を中心に、懇切に解説。血統と地位が生んだ闘争から、公家社会の理解を深める。						

書名	奈良千夜一夜物語			著者名	あをにまる／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-117066-3	本体価格	¥1,600	発売	2026/2/26
内容	■「金の小野」別れ話で口論となり、彼氏を奈良公園近くの猿沢池に突き落とした大学生の霧江。すると池から奈良時代の采女装束の女が現れ、彼女に選択を迫ってくる。「あなたが落とした彼氏はー」■「シンデラレン」冴えないホテルマンの新出礼助は、家族との冷え切った関係に悩みながら夜の東大寺を歩いていた。大仏殿の東側に「猫段」と呼ばれる石段があり、ここで転んだ人間は猫になってしまうという。そんな伝説を思い出した礼助が、鳴り響く鐘の音に合わせて石段を登り始めたところうっかり足を滑らせてー。						

書名	ここまでわかった聖武天皇の宮			著者名	奈良文化財研究所・大阪歴史博物館／編		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08493-2	本体価格	¥2,000	発売	2026/2/27
内容	天平の栄華をきわめた聖武天皇は、なぜ平城宮から遷(うつ)ったのか。恭仁宮、紫香楽宮、難波宮への遷宮は、古代史上、今なお大きな謎である。聖武天皇に関わる最新の研究と発掘調査の成果から聖武天皇が造った諸宮を紹介し、その謎解きに挑んだシンポジウムの記録集。さまざまな分野の専門家によるコラムをちりばめ、古代の宮殿跡の魅力を解説する。						